

龍馬ハ生キテイル

Ryoma lives on within us

題字：沢田明子(書家)



発行：一般財団法人 坂本龍馬財団 〒780-8040 高知県高知市神田1676番地 TEL088-802-8934 FAX088-845-1721 <http://www.ryoma-foundation.org/>

創刊に寄せて

未来を担う龍馬育てよう！

坂本龍馬財団評議員 坂本 登
郷土坂本家九代目

私達は2011年、県立坂本龍馬記念館の20周年記念事業の一環として「今、なぜ龍馬か」をテーマに龍馬が行きたくて行けなかったアメリカへ、その思いを35人の胸に、ハワイからニューヨークを周るフォーラムの旅に行ってきました。

東日本大震災から7ヶ月後の10月9日から9日間の旅でした。ハワイのオバマ大統領が卒業したプナホウスクールでは学生を対象に、ハワイコンベンションセンターでは一般の人向けにシンポジウムを行いました。いずれも好評で、その中で龍馬についてはアメリカではリンカーン、ジョージワシントンのような人だとの評価でした。また、東日本大震災についての関心が高く多くの方々から義援金も寄せられています。

続いてニューヨークジャパソサエティーでのフォーラムでは、日米高校生の討論を通じ高校生同士の悩みはどこも同じであるとの感じを強く受けました。

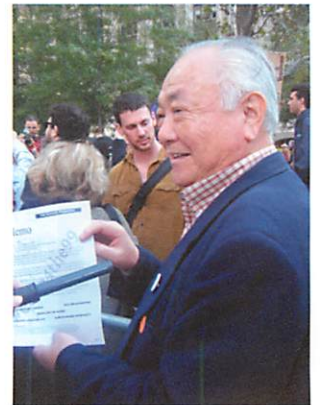


フォーラムを通じて「龍馬スピリッツ」はアメリカ人にも通じる、理解してもらえる、その確信を得たように思います。アメリカ人も日本人も、環境問題、地球温暖化、省エネ問題、格差問題、失業問題等国が違っても今、悩みは同じなのです。

国が変わっても人の心は変わらない、龍馬が考えていた「人類愛」己を捨てて人の為に尽くす、

龍馬精神発信基地ミュージアムをニューヨークに設置し世界に向け発信しよう、高知県立坂本龍馬記念館森館長の呼びかけで私たち一行35名全員が1枚の色紙に記名し坂本龍馬財団の設立を誓ったのです。

フォーラムを終え一同35人全員が財団設立に向け頑張ろう、5年後にニューヨークに龍馬ミュージアムを創り龍馬を世界に発信しよう、それが旅の別れの合言葉となりました。



ニューヨークのデモでインタビューを受ける

私達は財団設立に向け動き出した。財団の名称をどうするか、いろいろと案が出たが「坂本龍馬財団」に決った2012年3月20日高知市の城西館で設立総会、評議員、理事を選出、財団の理事長は坂本龍馬記念館の森館長に決まりました。4月には京都国際会館で大々的にお披露目イベントを行いました。

龍馬は5年間で大きな仕事を成し遂げ凶刃に倒れた。私達は財団設立5年目を目標にニューヨークに龍馬ミュージアムを造る。

今日の日本を見る時、政治の貧困、原発問題、経済低迷、福祉の貧困、増税等々、平成の現代はまさに幕末維新の様相であります。将来の日本を担う龍馬を育てることも坂本龍馬財団の使命であろうと思うのです。

創刊に寄せて

目標達成に向けて前進！

坂本龍馬財団代表理事 坂本龍馬記念館館長 森 健志郎



龍馬脱藩150年となる2012年「坂本龍馬財団」は誕生しました。そのきっかけがニューヨークだったというのが、いかにも龍馬らしいではありませんか。あの日、2011年10月15日(土)の興奮は、私の脳裏に焼き付いて消えることはありません。

場所はニューヨークウォール街の公園でした。郷土坂本家9代目、坂本登さんたちと一緒にアメリカ通のジョン万次郎研究家、北代淳二さんを案内人に、例の「格差は正デモ」の現場に出かけたのです。訪米の目的だ

った「今、なぜ龍馬？」フォーラム日程を成功のうちに終え、唯一の自由時間でした。1パーセントの富裕層に対する99パーセントの庶民が平等を訴えるデモです。民主党、共和党関係なし、民衆の怒りのデモです。突き上げられるプラカード、その後方から通行人に声高に呼びかける真剣な眼差しは、言葉は分からない私にも伝わってきました。

不意に坂本さんが言いました。「館長、これは幕末ですよ。私はニューヨークで幕末を見ました。世界のニューヨークですよ」。その言葉を聞いた時、ぞくぞくと鳥肌です。北代さんと3人が顔を見合わせました。今回のフォーラムで終わりにして坂本龍馬記念館20周年の区切りにしようと決めていたスケジュールが、その瞬間狂いました。「終わりではない、龍馬発信は今からスタート」だと。

フォーラム参加者全員が思いを一つにしました。その結晶が「坂本龍馬財団」です。目標はニューヨークに龍馬発信基地として「龍馬ミュージアム」設立です。龍馬暗殺150年まで後5年、幕末の5年を乱れようはよく似た平成の現代に重ねました。2017年です。会員を増やし目標達成に向かって前進です。

坂本龍馬財団 踏み出した一歩

ニューヨーク龍馬ミュージアム設立を目指して

財団メンバーら35人、3泊4日で台湾へ 台湾・李登輝元総統と感激の対面!!

坂本龍馬財団理事 廣末 智子

7月下旬、熱心な龍馬ファンで知られる台湾の李登輝元総統の快気祝いを目的とする台湾訪問が実現した。メンバーは、坂本龍馬財団と「にんげんクラブ」の有志による、一昨年、アメリカツアーに行ったときと同じく、年齢も職業も居住地もてんばらばらの35人。共通しているのは胸に秘めた「龍馬スピリッツ」だけだ。



李登輝さんは2009年、妻の曾文恵さんとともに桂浜の龍馬像を訪れ、坂本龍馬記念館にも立ち寄っている。そのとき熱心に館内を見て歩き、熱く龍馬について語る姿に、記念館の森館長は“民族を率いる人のオーラを見た”と言う。以来、館長の李登輝さんへの尊敬は深まり、龍馬の木像を贈るなど交流を続けてきた。龍馬と同様に、人との出会いを何よりも大切にしている李登輝さんは、その縁を忘れず、満89歳のご高齢、そして病み上がりにもかかわらず、私たち訪問団を温かく出迎え、心からもてなしてくださった。

そして約2時間にもわたる講演を聴かせていただいた。そのお話の中で、あらためて分かったことは、李登輝さんが単なる1人の龍馬ファンではなく、龍馬の生き方にならって、龍馬の船中八策をお手本に、台湾の無血改革を成し遂げたということ。日本の統治下の台湾で生まれ、日本が敗戦する22歳まで日本人として生きた李登輝さんの、日本人が持つ本来の日本精神への



愛着、尊敬を糧に、台湾初の本島人の総統として台湾の政治に手腕をふるった、その根本に龍馬の精神があったことに、訪問団一人一人が感銘を受け、あらためて龍馬の偉大さに触れた思いがしたことだった。まさに李登輝さんは“台湾の龍馬”と言える人物で、そんな偉大な方のお話を間近で聴くことができたばかりか、夜の酒宴の席まで構えていただき、一人一人とフランクに分け隔てなく接していただいたことに、だれもが深い感動に浸った。

李登輝さんが講演で話された「日本はいま、誰もが何をすべきか分かっていない。リーダーシップというものが分からない。ここらへんで龍馬財団をつくって船中八策に基づいた龍馬の精神を伝えなくてはならない」という言葉。また、「世界の情勢は変わった。我々は新しい龍馬をつくりなおし、発見し、教育しなければならない。見つけなければならない責任を持っている」と力強く話された言葉のすべてが、私たちを勇気づけてくれた。なぜなら、それらはまさしく、私たち坂本龍馬財団の存在意義そのものだから。財団をいまこの時期に立ち上げたことが必然だったことを李登輝さんの言葉が裏付けてくれたように感じ、心強く、嬉しかった。そして、それとともに、財団に託された責任の大きさがいま、あらためて問われていることを痛感させられた旅だった。私たちの背中を押してくれた李登輝さんに感謝し、その期待に全力で応えていきたい。

大病から回復したばかりで、しかも今年、満89歳の元総統が、訪問団の前に、大きな体を乗り出し、熱く語ってくださった講演内容のすべてを収録。日本の占領下の台湾で生まれ、22歳までまさに日本人として、その精神性を育ててきた李登輝氏。さらに、龍馬の船中八策にならって台湾の無血革命を成し遂げた、まさに“台湾の龍馬”ともいえるべき偉大な政治家である李登輝氏が、日本人が大好きだからこそ、今の日本を憂い、新時代の龍馬の到来を強く願っている。その熱い思いを訪問団だけで共有するのではなく、多くの人に伝えたい——まさにその一念で出版した一冊。

政治、経済、社会の混迷が日本だけでなくアメリカ、アジア、そして、世界中にまで広がっている今こそ、私心を捨て公に尽くす龍馬スピリッツが求められている。“出会いの達人”である龍馬のように、人との出会いを大切に、志を持ち、行動する。この本を通じて、そのことの重要性を感じていただければ、との想いを込めている。

この本の特長は李登輝氏の講演録だけでなく、35人の訪問団のそれぞれが、それぞれの感性で李登輝氏の人間的魅力を語っていることにある。また李登輝氏の講演の中には、これからの日本の舵取りを一体誰に託せばよいのか、まさに問われている

「目を覚ませ日本! 21世紀の龍馬よ!

こころ

李登輝元総統・魂の提言

『坂本龍馬財団』李登輝元総統快気祝い表敬訪問記

今こそ、そのヒントにもなる言葉がたくさん含まれてもいる。

財団会員の皆さんには差し上げたいところだが、財団の基金の一助とするため、1冊1,000円でご購入をお願いし、ご一読のうえ、お

知り合いの方々にも、勧めていただければ有り難い。

なお、お申し込みくださる場合は、アマゾンでも購入可能ですが、坂本龍馬財団事務局（088-845-1721）か高知県立坂本龍馬記念館（088-841-0015）までファックスいただければ郵送いたします。



ハワイ高校短期留学の大石さんをバックアップ

坂本龍馬財団、最初の発信

「坂本龍馬財団」の発信第1号事業は、2011年10月、坂本龍馬記念館が実施したアメリカフォーラムがきっかけである。オバマ大統領の卒業した高校ハワイ・プナホウスクールでのフォーラムで、日本側パネラーとして参加していた高知県の県立嶺北高校の2年生、大石すみれさんの発表を聞いたプナホウスクール関係者から、大石さんに留学呼びかけのアプローチがあったのだ。大学受験を控えている大石さんは長期留学が困難なことから、2012年夏の短期留学（サマースクール）への参加が決まり、財団事業として応援することになったものだ。以下は、大石さんの体験報告である。

ハワイでの短期留学に参加して

高知県立嶺北高校3年 大石すみれ

自由な授業スタイルに驚く

今回ハワイに行って現地の人と同じような生活をしてみて一年前に行ったときよりもっとリアルなことを知れた気がします。

その中で一番驚いたことはプナホウスクールでの授業のスタイルがとてもラフだったことです。授業の間の休憩時間はもちろん、授業中でさえも、私達は自由にスナックを食べる良いことになっていました。トイレも同様で、いつトイレに出て行っても構いません。また、女子生徒はメイクやネイルもオーケー、アクセサリーもつけて良いのです！こんなに自由な学校があるんだ、そう感じました。けれども、もしかしたら、それが普通なのかも知れないなとも思いました。禁止しなければならないということ自体がおかしいのかなと思いました。すでに自分の行動に責任を持って生活できているので、ルールを減らしていても大丈夫なのです。



ホストファミリーのオードリー・ケイコ・セキさんと

とけ込んでいる日本文化

そして、ハワイの文化には日本文化が大きく影響しているように感じました。例えば、私がハワイに着いたその日にホストファミリーがハワイのお寺で行われている、盆踊りに私を連れて行ってくれました。そこでは多くの人達が浴衣を着て上手に盆踊りを踊っていました。また、驚いたことに、私のホストファミリーの家ではほとんど毎日炊飯器でお米を炊き、冷蔵庫には常に醤油があり、ご飯を食べるときはお箸も使っているなど、本当に色々なところに日本文化がとけ込んでいました。

新しい友との出会いに感激

今も今回の短期留学で出会った各国の友達と連絡を取りあっていますが、最初会ったときは、どう話しかけて良いかも分からず、本当に戸惑いました。育ってきた環境や考え方は様々で、それぞれ経済的におかれている環境も全く違います。そのような生活の違いからくる、行動の違いに戸惑ったことを良く覚えています。それでも最後にはみんなと泣きながらお別れをしました。その時、またハワイに集まって会おう！と約束をして、日本に帰ってきました。これからもこの友達とは、これだけで終わる気がしていません！この先、仕事で困ったとき、国際的な活動がしたいときなど、お互い助け合えるような素晴らしい友達が出来ました。



短期留学の仲間たちと

“龍馬”が繋いでくれたもの

今回、ハワイに行かせていただいた、本当に多くのものを得ることが出来ました。実際、自分にも何か確実に変化が起きています。このように嶺北から飛び出して、色々活動をさせていただけるようになったのは他でもなく、坂本龍馬記念館、龍馬財団のおかげなのです。これまで嶺北を元気にしたいと思っていても、嶺北の中でしか活動していなかった私と、もっと大きな世界を、坂本龍馬という人物が繋いでくれました。全て龍馬という一人の人物から始まったことなのです。また、そのおかげで今回のように沢山のひとと接することが出来るようになりました。だからまず、龍馬さんにお礼を言わなくてはなりません。いつも、ありがとうございます。そして、龍馬を発信し続け、多くの可能性を与え、サポートしてくれる坂本龍馬記念館、龍馬財団の方々本当にありがとうございます。感謝しています。これからも私は龍馬との出逢いで繋がることの出来た人達と、ずっと支え合える関係でいたいと思っています。これからもよろしくお願いします！ありがとうございました。

龍馬と本格的につき合い始めて10年になろうとする。父の影響や、土佐人のDNA、龍馬の家と育った環境が近かったせいか、子どものころから龍馬は身近にいた。しかし、改めて龍馬とつき合ってみると、なかなか奥が深い。しかも、龍馬の周りには昔も今も有象無象の人やものごとが集まってくる。不思議な男である。

初代館長も二代目森館長も、歳月とともに龍馬がのり移ったような言動が見られるが、実のところ私自身にも当てはまるようだ。頼まれて講演に出かけたとき、「龍馬を語りだすと、目の輝きが変わる。龍馬がのり移っているようだ」と言われたことがある。

『龍馬伝』年間40回を出かけ、その放映中には超す講演に断わらなければいけないほどだった。そんな頃からの依頼に最近ようやく応えた講演のあと、「すっかり龍馬はあなたの中に血肉化され、あなたの中から奪うことのできない核となっていると感じた」と手紙をいただき、素直にうれしかった。

先日は、母校で3度目の『ようこそ先輩』授業を行った。高校生から「高知の人間としてもっと龍馬のことを知らなければいけない」「本校にも龍馬の関係者がいたなんて驚きだ」という感想が寄せられた。ライオン宰相浜口雄幸を育てた歴史を重んじる母校の伝統は、今も在校生に引き継がれているようだ。「龍馬は私たち土佐人の誇りだ」という16歳の声は今も心に響いている。

(坂本龍馬財団理事/坂本龍馬記念館学芸主任 前田 由紀枝)



「土佐人の誇り」

放映中には超す講演に断わ



角田 和夫

龍馬点景

幼い頃から赤面恐怖症だった私は、青春時代を劣等感に苛まれて過ごしてきた。社会人となり、仕事で坂本龍馬の足跡を追っているうちに、龍馬も劣等感を持っていたことや、世の矛盾を改革する志をもち続けたことが分かり、そのことが自分を鼓舞することにつながった。夢は持ち続けられ、いつかはかなえるのだ。龍馬のように。

(すみだかずお・写真家)

思いでつなぐ握手の鎖



900人が龍馬を感じる

11月18日(日)、高知市桂浜で、坂本龍馬記念館前に立つ「シェイクハンド龍馬像」と桂浜の龍馬像との間540メートルを、人の握手の鎖でつなごうというイベントが行われた。一本につながるには最低500人の参加が必要と思われたが、倍近い900人が参加、「やっぱり龍馬はすごい」と当代第一の人気者の実力をみせつけた。

県外に比べて地元参加者の反応が薄く、やきもきさせた「レッツゴー・ハンド・イン・ハンド」企画が、最後の最後に沸騰した。「坂本龍馬財団」からも坂本登さんをはじめ、ミュージシャン「OTOGI」の河村、金子さんらも「鎖」に加わる。当日午前7時頃から、続々集合場所の桂浜龍馬像前は人波であふれ返った。最終握手役の尾崎知事も早めの登場。下から上まで歩いて皆さんに声援を受けあいさつした。龍馬姿の幼稚園児、ユニホーム姿は野球チーム、着物グループ、自衛隊制服姿も。

横断する県道の通行ストップは2分間の制限つき。8時31分カウントダウン、そしてスタート。全員で手を握り「龍馬サンに誓う・現代こころの八策」を唱和した。静寂の後に歓声が起こり、握った手を皆が天にあげた。「つながり合うことで生まれる大きな力の存在を実感しました」そんな声が聞かれた。龍馬は確かに生きてい

【龍馬さんに誓う
現代こころの八策】

- 1、家族を大切にしよう。
- 2、お年寄り、先生を敬おう。
- 3、友だちと仲良くしよう。
- 4、思いやりの心を持とう。
- 5、正々堂々と歩もう。
- 6、志は高く持とう。
- 7、勇気を持って行動しよう。
- 8、レッツ ゴウ ハンド イン ハンド
(手をつないで前に進もう)



ともに行動しよう!

「坂本龍馬財団」全国発信・参加を呼びかける

2012年4月誕生した「坂本龍馬財団」の全国向けの発信は同月22日の京都国際会議場からとなった。「にんげんクラブ京都大会」のプログラムの中に加わり、混迷の平成の現代、私心なき「龍馬スピリッツ」の実践を熱く語りあった。

よりよい近未来創造のための人材育成を目指す「にんげんクラブ」と龍馬財団の人づくりの思いが一致するところから、この日の“合同”発信となった。会場には1,000人も参加者が集まり、熱心に耳を傾けた。財団からは先のアメリカフォーラムに出席した高校生を除くフルメンバーが出席。「アメリカでも龍馬のような私心なきリーダーの登場が待たれている」ことなどを発表。龍馬が活躍した幕末の5年を現代の5年に重ね、2017年ニューヨークに龍馬発信基地として“龍馬ミュージアム”を創ることになった経過も話し、財団への加入をよびかけた。

■「坂本龍馬財団」問い合わせ先

TEL088-802-8934 FAX088-845-1721 携帯 080-3169-9126(森)

バッジは付けていますか?
会員証にスピリッツは書いていますか?

バッジと会員証は「坂本龍馬財団」会員の証です。

赤い地球をぐるり青い海で取り巻く構図にV字の切れ込みがあります。「海の青さで地球を包み、人々に“龍馬スピリッツ”を広める。私たちはつねにVに向かって行動する。Vは行動のシンボル。行動なくして勝利はない」坂本登さんのデザインをもとに制作したものです。きれいで、すがすがしいバッジです。胸に付けてください。ゴールドの会員証の裏面には、わが思いを書いて常時携帯しましょう。

